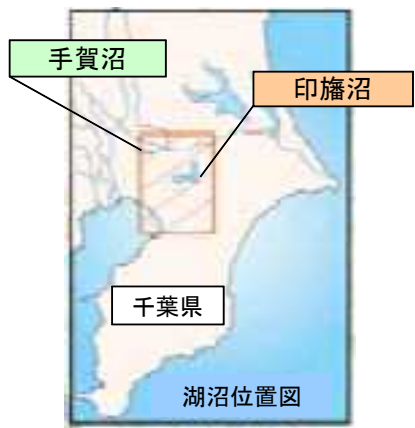


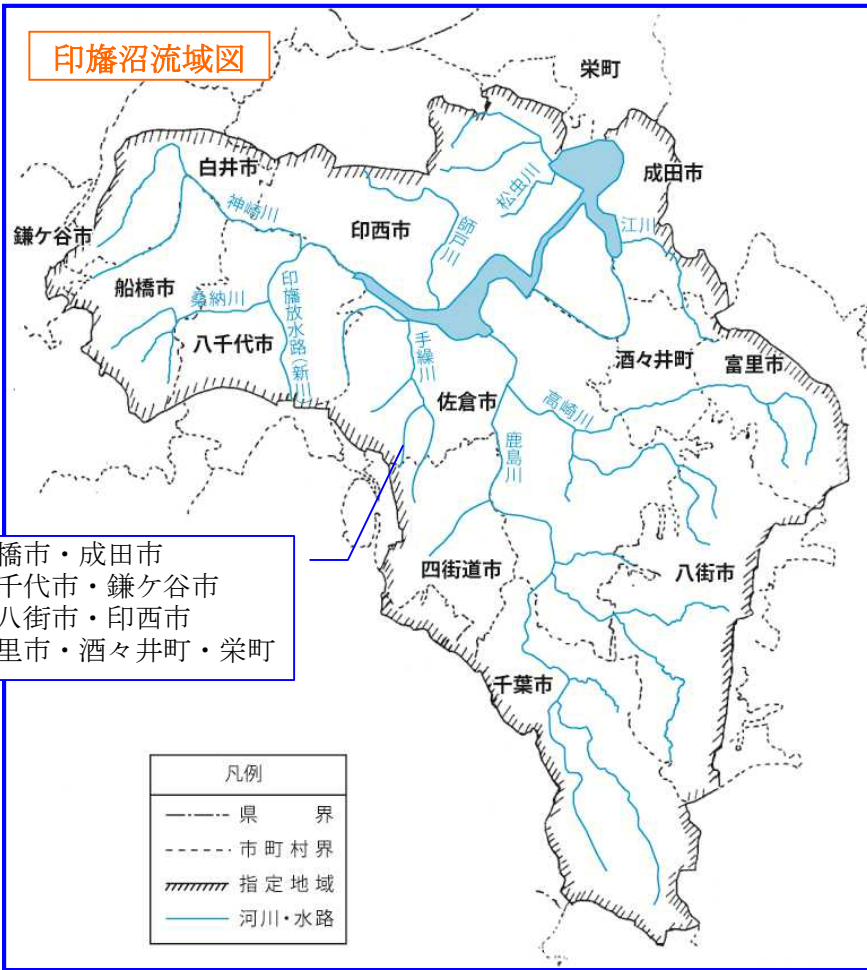


# 湖沼の概要

## (1) 湖沼の概要

千葉県概要		平成24年3月末現在	
面積	約5,157km <sup>2</sup>		
人口	約620万人		
世帯数	約2,546千世帯		
湖沼の概要	印旛沼	手賀沼	
面積	11.55km <sup>2</sup>	6.5km <sup>2</sup>	
集水域	493.89km <sup>2</sup>	144.35km <sup>2</sup>	
周囲	26.4km	38.0km	
貯水量	19,700千m <sup>3</sup>	5,600千m <sup>3</sup>	
最も深いところ	2.5m	3.8m	
特徴	<p>約1000年ほど昔、印旛沼、手賀沼は、それぞれ印旛浦、手下水海と呼ばれ、香取海という内海の一部であり海水が流れ込んでいました。昭和21年から約20年かけて行われた印旛・手賀沼開拓事業により、印旛沼は、北印旛沼、西印旛沼に分かれ、これを印旛水路で結ぶ形になり、手賀沼は、手賀沼、下手賀沼に分かれた形となりました。</p>		
	<p>印旛沼は、千葉県北西部に広がる下総台地のほぼ中央、東京から30km～50kmの位置にある海跡湖であり、その流域は、千葉市、船橋市、成田市、佐倉市、八千代市、鎌ヶ谷市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町の11市2町にわたっています。印旛沼の流域面積は、千葉県の総面積の約1割にあたり、千葉県一の流域面積となっています。</p> 	<p>手賀沼は都心から約20kmの千葉県北西部にある天然の湖沼で、面積は約650haあります。かつては底が透き通って見えるほど水が澄み、夏には子供たちが泳いで遊んだほど美しい豊かな沼でしたが、近年、周辺の都市化により水質の悪化が進み、夏にはアオコが異常発生するようになってしまいました。現在は、下水道整備や北千葉導水により以前より水質は改善してきています。</p> 	
下水道の概要	<p>千葉県では、生活環境の向上とともに広域的な水質保全という観点から、<b>印旛沼流域</b>、<b>手賀沼流域</b>、<b>江戸川左岸流域</b>の3つの流域下水道の整備を進めており、概要は次のとおりです。 なお、千葉県の下水道普及率は、平成23年度末で70.0%であり、全国第19位となっております。</p>		
	印旛沼流域下水道	手賀沼流域下水道	
概要	<p>印旛沼流域下水道は、印旛沼や東京湾の水質を保全するため、2つの処理場があり、昭和43年度に都市計画決定と事業認可を受け、同年度から事業に着手し、花見川終末処理場は昭和49年4月から又、花見川第二終末処理場は平成6年6月からそれぞれ供用開始しています。なお、印旛沼流域関連公共下水道の平成23年度末普及率は、93.3%となっています。</p>	<p>手賀沼流域下水道は、手賀沼の水質を保全するため、昭和46年度に都市計画決定と事業認可を受け、同年度から事業に着手し、昭和56年4月から供用開始しています。なお、手賀沼流域関連公共下水道の平成23年度末普及率は、85.7%となっています。</p>	
特徴	<p>印旛沼流域下水道では、下水道の多目的利用として、1) 処理水を高度処理して水洗トイレ等に利用する「再生水利用」事業、2) 地域冷暖房に処理水の持つ熱を利用する「熱源供給事業」、3) 水処理施設の上部空間を「美浜ふれあい広場」として県民に開放する事業を行っています。</p>	<p>手賀沼流域下水道では、処理水を利根川に放流しており、下流側が水道水源となっているため、当初から急速ろ過による高度処理を行っています。</p>	

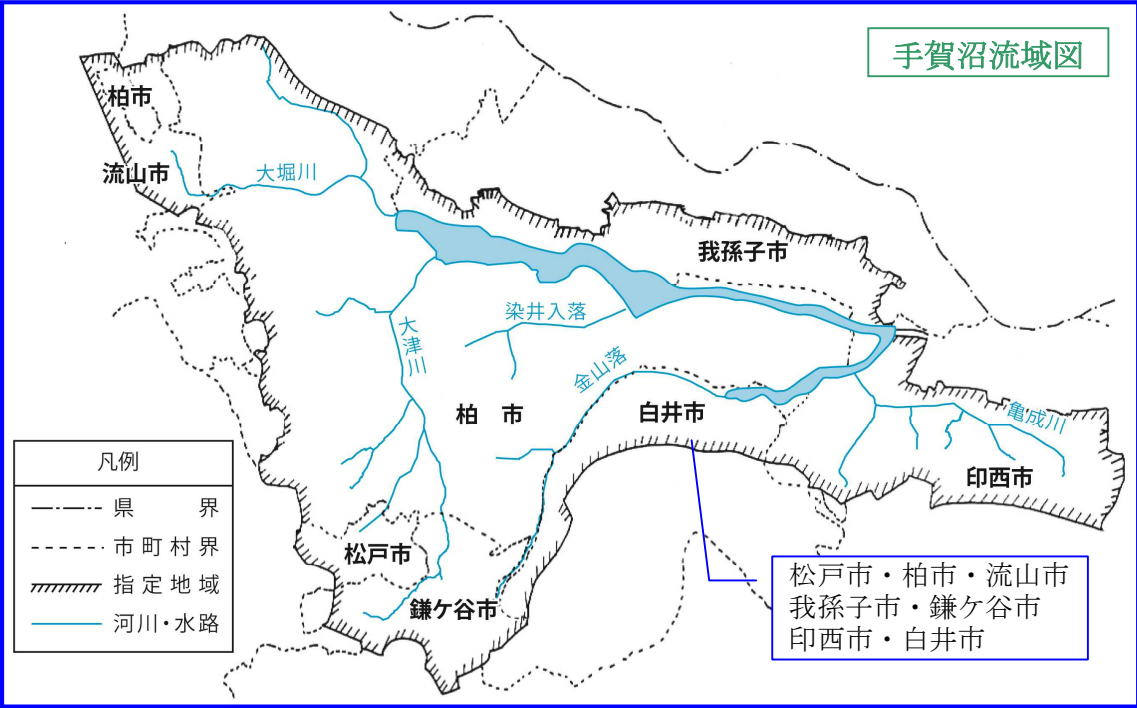
### 印旛沼流域図



千葉市・船橋市・成田市  
 佐倉市・八千代市・鎌ヶ谷市  
 四街道市・八街市・印西市  
 白井町・富里市・酒々井町・柴町

凡例	
-----	県界
-----	市町村界
////	指定地域
—	河川・水路

### 手賀沼流域図



松戸市・柏市・流山市  
 我孫子市・鎌ヶ谷市  
 印西市・白井市

凡例	
-----	県界
-----	市町村界
////	指定地域
—	河川・水路

## (2) 印旛沼の概要

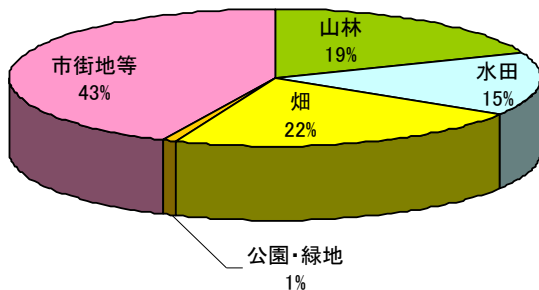
### ◆沼の利用状況

項目	平成23年度
上水 (千立方メートル/年)	32,885
工業用水 (千立方メートル/年)	62,205
農業用水 (千立方メートル/年)	68,498



「船着場」

### ◆沼の土地利用状況(平成23年度)



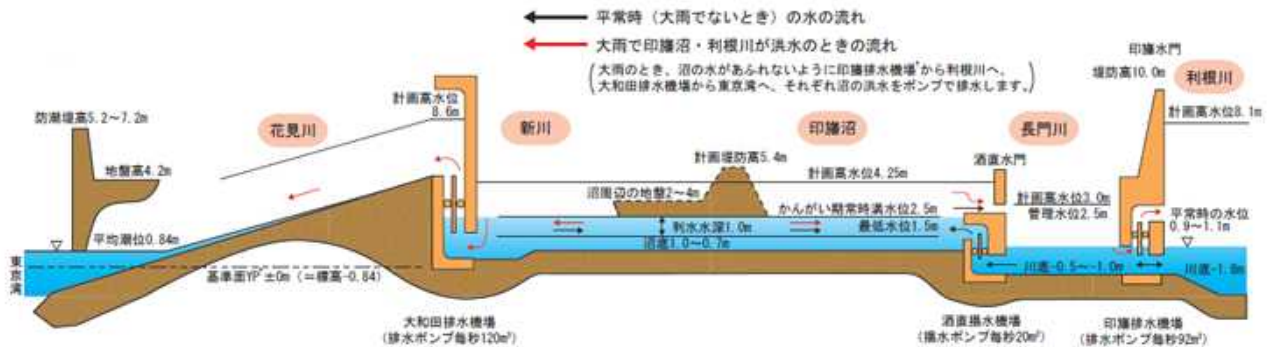
「水鳥」

### ◆沼の水の流れ

印旛沼は、長門川によって須賀地域で利根川と結ばれており、長門川には、利根川の洪水による長門川への逆流を防止するための印旛水門及び利根川から印旛沼への取水を行う酒直機場が設置されています。

また、長門川とは反対側にあたる印旛放水路（新川）の大和田地先には、大和田排水機場が設置されており、洪水時には下流河川である印旛放水路（花見川）を通じ、東京湾へ放流しています。

上水、工業用水、農業用水は河川から流れこんだ水や利根川から引き入れた水を印旛沼から取水しています。



### (3) 手賀沼の概要

#### ◆沼の利用状況

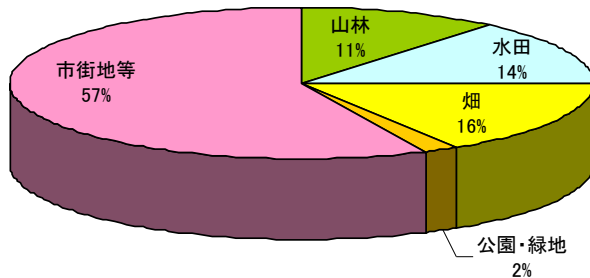
##### 手賀沼

項目	平成23年度
上水 (千立方メートル/年)	—
工業用水 (千立方メートル/年)	—
農業用水 (千立方メートル/年)	19,520



「栈橋」

#### ◆沼の土地利用状況(平成 23 年度)

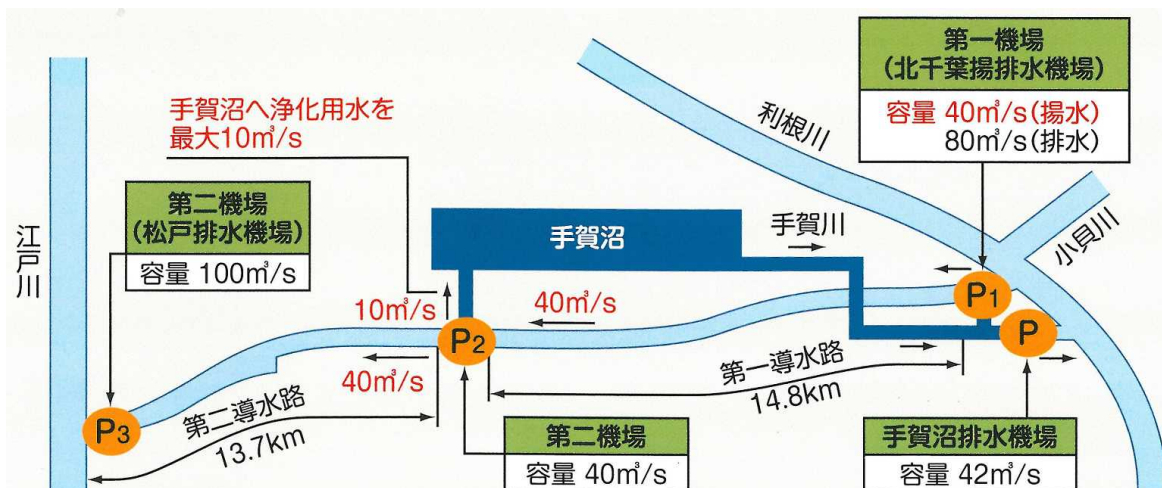


「白鳥」

#### ◆沼の水の流れ

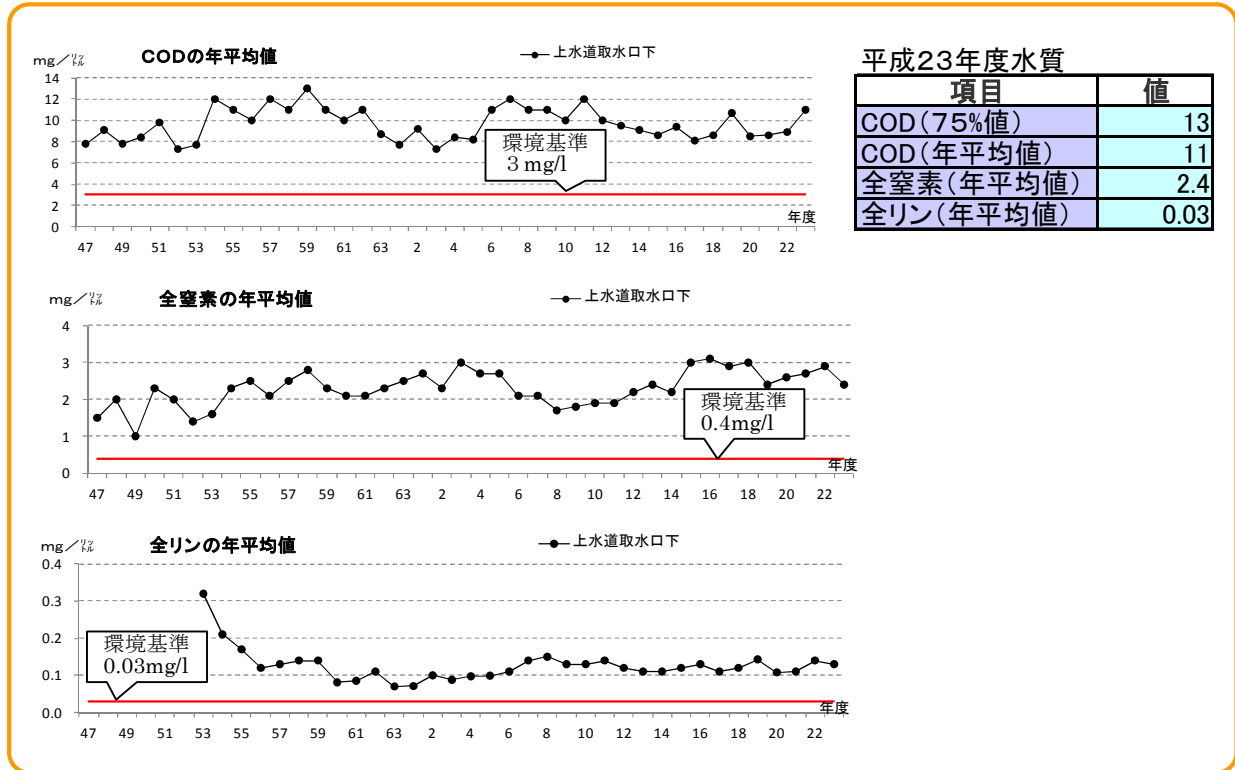
手賀沼は、手賀川によって木下地先で利根川と結ばれており、手賀川には、利根川の洪水による手賀川への逆流防止と、手賀川の洪水を利根川に排水する手賀沼排水機場が設置されています。

また、平成12年4月から、北千葉導水事業による浄化用水の導入が行われています。



## (4) 主要水質項目の動向

◆印旛沼（測定点：上水道取水口下）の水質経年変化グラフ（年平均値）



◆手賀沼（測定点：手賀沼中央）の水質経年変化グラフ（年平均値）

